

クラス番号	915	担当教員名	野尻 紀恵
テーマ	子どもの育ちの環境に向き合う住民の力		

## ゼミナール概要

【目的】私は大阪や愛知でスクールソーシャルワーカーとして活動をしてきました。それぞれの子どもが持つ「強み」を見つめ、子どもをエンパワメントする支援とはどのようなものであるのかについて考え、「子どもの抱える生活課題」へのソーシャルワーク実践を試みてきました。子どもは人間としての誇りを持って育つ権利を有しています。しかし現実には、子どもは様々な困難を抱えています。その背景には、貧困や生活格差の問題、子どもに関心が向けられない地域や家族というような、生活実態の困難さが多々存在します。また、社会の崩壊、地域社会や家庭・親子関係にまで及ぶ人間関係の疎外なども視野に入れなければなりません。基本的に重要なことは、子どもの生活の問題を全面的にとらえること、子どもの現実についてリアルに捉えることです。社会のあり方や地域住民の状況をしっかり見つめ、広い視野で子どもの環境をとらえることにより、子どもの育つ環境に住民一人ひとりが向き合う必要があります。その上で子どもを取り巻く環境（家庭、学校、地域など）への福祉的アプローチの実践および地域ネットワークが創られていくのです。この知多半島には、子どもを支援するNPO等の団体も数多くあります。また、子どもの環境に働きかけることにつながる活動もたくさんあります。そのような活動を通して学んでいきましょう。「子ども支援の鍵は地域にあり」です。

【方法・内容】子どもの育ちを支える地域づくりとはどのようなものであるのかを知るためには、地域に出向き、地域から学ぶことが重要です。そこでこのゼミでは、知多半島にあるNPO等の活動に関わり、地域貢献を通して学びます。NPOでは地域に根ざした子育て支援、障害者支援、高齢者介護など、様々な活動が行われています。地域課題に直面しながら活動しているNPO現場に出向き、地域のニーズを把握し、何が求められているのかを探っていきましょう。そして学生自らが企画した地域貢献活動を、夏休みの6日間で実践します。この実践により、子どもが生活する地域をより深く捉えることができるはずで、活動後は子どもが育つための「地域」を見つめなおし、「地域」のあり方について考察しましょう。「子ども支援の鍵」を「地域」に求めることで、「子ども支援」の視野が広がるに違いありません。

### 【学習計画】

春休みにNPO見学のバスツアーを行います（予定）

4月以降は、希望するNPOを選択して、夏の活動にむけて事前学習をしていきます。

あるいはNPO以外でも希望する活動があれば、調整をしていきます。

自分たちで可能な地域貢献にむけた企画を考えていきます。

夏休みには6日間の活動を、実際にNPOなどで行います。

後期には報告会にむけてのリフレクションを行い、プレゼンの準備をしていきます。

この年間のプログラムにおける参加度（提出物、活動、発表など）について総合的な評価を行います。こうした一連の学習プログラムは、「サービスマーケティング」と呼ばれるアメリカで開発された教育メソッドです。日本福祉大学は日本で最初に福祉系大学でこのプログラムを取り入れてきました。将来、ソーシャルワーカーとして活躍していきたい人たちにとって、必要な基礎力を育むためには、最適な学習方法のひとつです。ぜひ挑戦してみてください。

### 担当教員からのメッセージ

スクールソーシャルワークの現場にいと、「地域で生活する子ども」を支援するための公的な制度や社会資源がとても少ないことに気づきます。地域の中に「困っている子ども」がたくさんいるということは、「困っている親」もたくさんいる、ということではないでしょうか。なぜ「困っているのか」を考えていくと、そこには社会問題が山積していることに気づくでしょう。このような問題を解決するためには個人の努力や、公的な制度だけではどうしようもないことが多々あるのです。そんな時、解決の糸口を地域に求めてみると、可能性は広がっていくのです。子どもは社会を、地域を、大人を反映しています。子どもの育ちを支えるための環境について探求し、地域の底力UPと一緒に考えていきましょう。